

ごあいさつ

30年続いた平成も今年で変わりますね。

思えば、平成は「食」文化が大きく変化した時代だったのではないのでしょうか。

平成初期のバブル時から世界各国の食材や料理が次々と紹介され、それまで見たことも食べたこともないような美味しく珍しい「食」をわたしたちは堪能してきました。

そんな「食」を楽しむ一方で、次々と目新しさやネームバリューといった、ひとときの刺激や自己満足を過剰に追求しようとした一面もありました。

そして、追い求めたモノは身体にとって必要な「食」と呼べるものではなく、ただただ消費するモノへと……。本来、わたしたちの身体を維持するための大切な「食」が、消費するモノとなった途端に食品偽造や産地の偽装、生産地（国）への過剰生産要求と環境破壊、売れ残りの大量廃棄など、とても大切なことを置き去りにしてしまったように感じます。

倫理を無視した商業主義の下、わたしたちはいつの間にか身体で味わうことを忘れ、頭（思考・嗜好）で「食」を取り入れてしまっているのではないのでしょうか。

そのような扱いの「食」に対して違和感を感じた生産者や消費者が、オーガニックや「生産者の顔が見える」生産への転換を求めたように感じています。

*（「顔の見える」という言葉は、生産物の生産－加工－流通に至るトレーサビリティ（生産履歴）の抽象的な意味合いとして用いられるものです。）

今や欧州を中心として「食」はただ消費するモノとしてではなく、生産環境から地球環境、健康的であるか否か、その生産や消費が持続する経済活動として相応しいか否かについても考慮しようと、エシカルな視点を持つライフスタイルが進んでいるようです。

これまでのオーガニックやエコロジー、ロハスなど、従来の環境重視の消費活動から買い支えることで社会貢献できる消費活動へとさらに一歩進んだエシカルな活動が、生産者－消費者をより強く結び、持続する社会活動として注目されています。

Honey&Herb-CLUBでは、CSAシステムを導入し、これまで多くの皆さんに支えられて養蜂活動・蜜源増殖を図って参りました。第一回目のときに植えたニセアカシアも3~4Mに成長し、今年からは花蜜も少し望めそうです。皆さまのエシカルな活動は、植樹した蜜源樹木やその都度更新が必要なハーブの株など・・・養蜂にて飼育するミツバチだけではなく、在来種のハナバチをはじめとする昆虫たちを含む環境への寄与として年々充実しています。

今期（2019年度）は近年の災害や開発で傷つき多くを失った樹木や放棄農地の再生など、持続する養蜂環境の整備のため、これまで以上の樹木の栽培・植林を手がける予定です。

皆さまのご協力お願いいたします。

Honey & Herb CLUB 担当：尾形 剛弥

*** 養蜂もオーガニックに** 養蜂で用いられる防ダニ剤は蜜蠟に、抗生物質はハチミツに移行しやすい性質があります。そして、ミツバチにとってその薬は本当に必要なのだろうか？
わたしたちは、自然のままにミツバチたちが健康に過ごせることが何よりと考え、フィトセラピーに必要なハーブの栽培、相応しい養蜂環境の整備を将来へ繋ぐバトンとして、蜜源樹木の栽培・植樹などの必要とされる作業をCSAを導入しCLUB会員の支援により活動しています。

*** 養蜂では珍しいCSA** アメリカではじまり、日本でもオーガニック（有機農業）の支援として広まりつつあるCSAですが、養蜂業界ではまだまだ珍しい取り組みです。

養蜂や農業などの生産の現場では、効率のよく生産を図ろうとすると、どうしても合理化が必要になります。

有機農業や自然養蜂の場合は、環境に大きな負荷を与える合理化を図る資材（化学肥料・農薬）は使いません。そのため、とても手間（労力）がかかります。しかし、自然に近い田園や山あいにおいて循環型の生産システムに切り替えていかないと、持続する生産環境となりません。後世へと繋ぐ大切な資源が負の遺産になってしまうのです。